

アクティブラーニング型の授業が増えている

授業の方法や内容別に経験の頻度をたずねたところ、2008年から学生の経験割合（「よくあった」+「ある程度あった」の%）が増えた項目が「ディスカッションの機会を取り入れた授業」（7.5ポイント増）、「教室外で体験的な活動や実習を行う授業」（6.7ポイント増）、「プレゼンテーションの機会を取り入れた授業」（6.6ポイント増）であった。学生参加型の授業が増えつつあるようだ。



あなたはこれまで大学で、次のような授業を経験しましたか。それぞれについて、あてはまるもの1つをお選びください。

図21 授業の経験（全体）

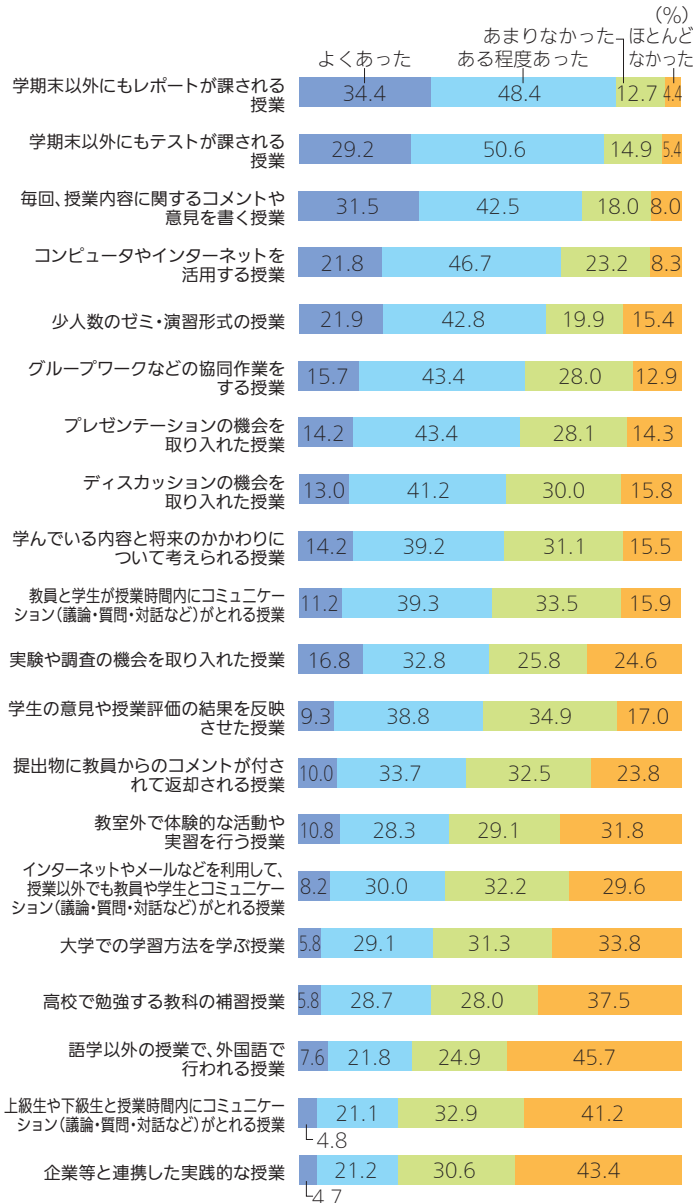
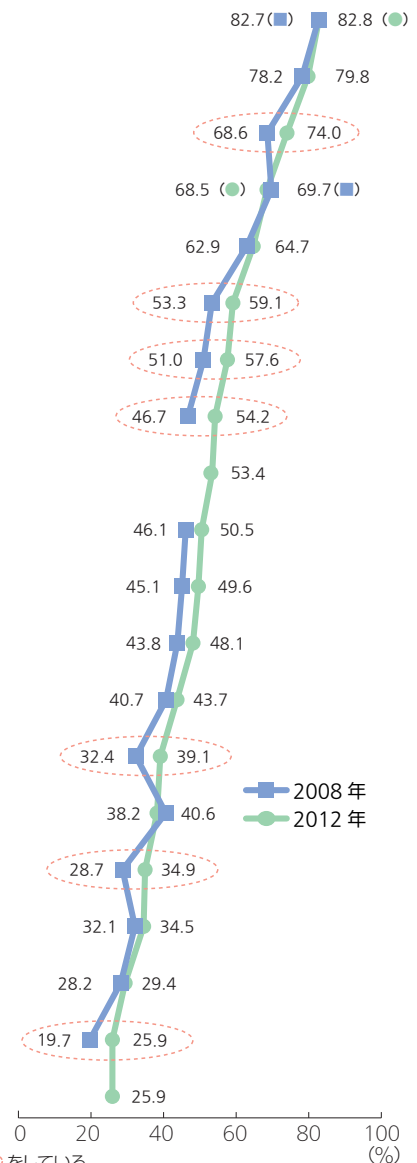


図22 授業の経験（経年比較）

「よくあった」+「ある程度あった」の%



注1) 経年比較については、2008年調査から5ポイント以上の違いがみられたものに○をしてしている。

注2) 「学んでいる内容と将来のかかわりについて考えられる授業」「企業等と連携した実践的な授業」は2008年調査ではたずねていない。

注3) サンプル数は2008年4,070名、2012年4,911名。

学部系統別にみると、それぞれの学問分野の特性によって授業の形式が異なっている様子がうかがえる。4つの学部系統で比較すると、前述の「ディスカッションの機会を取り入れた授業」「プレゼンテーションの機会を取り入れた授業」については、「人文科学」「医・薬・保健」で経験者の割合が6割前後と高くなっている。

図23 授業の経験(学部系統別)

